

加熱する受験競争

〈大韓民国〉

私のみた
海外の大学事情

丹羽 孝

いざやソウルへ

九一年度の名古屋市短期海外研修の機会に恵まれた私は、いくつかの理由があつてその研修先を大韓民国に決定した。幸い、それまでは全く存じ上げていなか

つたのだが、名古屋大学教育学部に馬越徹先生という韓国の教育問題については日本を代表する先生がいらつしやつたので、逐一ご指導いただくことができた。何という好運なことだったか、と今でも思う。そして、先生のアドバイスによって勉強先をソウル市内にある梨花女子大学の李相琴（イ・サンギム）教授をお願いしたのである。

七月一日、豪雨の金浦空港におりた私は、一路タクシードで宿舎に決めておいたソウルホテルへ向かった。どんな三カ月が過ぎるのか皆目見当もつかず、日本で書いておいた「ソウルホテル カジ カジュセヨ」を片手にである。くたびれ果ててその日は夕食もそこそこに寝てしまった。余談だが、この先数日は言葉と、とうがらしてまさに地獄であつた。

韓国の学校体系における大学

韓国の教育制度を知るために便利な資料の第一は「教育統計年報」（各年度

版）である。これは韓国の教育部（日本の文部省に相当する）が出している基本統計である。これによると高等教育機関には大学院（夜間大学院を含む）、四年制の大学、大学校、放送通信大学、二年または三年の専門大学がその内容となつている。

単科大学は、例えば私の関心である保育に近いところからいえばソウル教育大学、韓国社会事業大学という大学がある。また「大学校」という名称は日本のその用法とは異なつて、「大学校」複数の大学からなる総合大学」を意味している。ちなみに私が勉強させていた梨花女子大学校は、その「大学案内」（九一年版）によると、次のような構成になつている。

梨花女子大学校：一八八六年創設

学部：人文科学大学、自然科学大学、音楽大学、美術大学、体育大学、家政大学、師範大学、法律大学、医科大学、看護大学、理学大学、

平成教育院

大学院：大学院、

教育大学院（夜間）

産業美術大学院

これが韓国における「大学校」のひとつの目安として機能しているのである。

量的な問題についても少し触れておこう。概数は以下の通りである。

専門大学：百十八校 三五九、〇四九

人

教育大学：十一校 一六、〇一九人

大学……百十五校 一、〇五二、一

四〇人

また就学率は八・八％／一九七〇、九・六％／一九七五、一六・〇％／一九八〇、三五・六％／一九八五という経年変化を示している。現在は三五％前後で、数字的には一応の安定を見せている。

チマパラム

ところで近年有名になった「チマパラム」現象は、日本でいう教育ママの様相

を表現するハングルである。その意味は、有名な進学塾、家庭教師を求めてチマ

（スカート）の裾を翻し、パラム（風）を巻き起こして奔走する母親の姿を意味している。

なぜこんな現象が起こるのか。それは一つには大学の数が少なく、収容人数が厳しく制限されていることにある。単純に言えば、大学進学希望者の二人に一人しか大学の門戸は開かれていないのである。

二つには大学学歴の経済的メリット、すなわち高卒者と大卒者の初任給差がひどいときには約二倍もあつたという現実による。いま韓国の一流企業の初任給が日本円で約七万円くらいであり、私の泊まっていたホテルの五十歳代のマネージャーの給料よりやや少ないくらい金額である。

また大学教員の給料は、三十〜四十万円くらいがアッパークラスであるが、大学教員の職さがしは「昼間の星」を探す

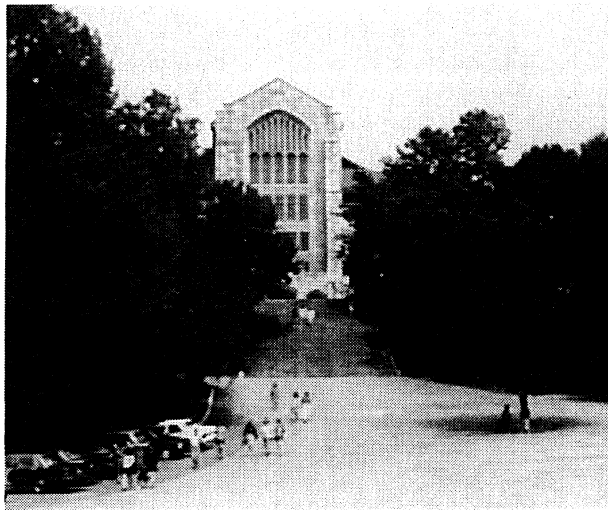
よりも難しいといわれる就職難なのである。したがって、他人よりも少しでも高い学歴獲得のための競争が必然となるのである。

梨花女子大のキャンパスと学生像

少し話が固くなってしまったが、私の

梨花女子大キャンパスのアメリカ文化紹介





梨花女子大の講堂と広場

見たキャンパス事情の一部を語ることにしたい。

ソウルでの私の身元引受人である梨花女子大学の李先生にご挨拶に何うのも、大仕事であった。その理由は、①先生は韓国幼児教育学会の大黒柱と言っている存在であり、大変おもしろいこと、②

アポイントメントをとるのがとてもたいへんなこと。先生は日本語がおできになるのだが、電話口に出ていただくまではハンブルしか通じないことでもあった。

しかし、なんとか梨花女子大のなかにある師範大学の先生の研究室にたどり着き、色々ご指導いただくことができた。

御年五十歳代の大変美しい、優しい、そしてきりつとした感じのする先生であった。私はこれから韓国の幼児教育研究に励み、仕事のレベルで先生と共同したい、と願っている。

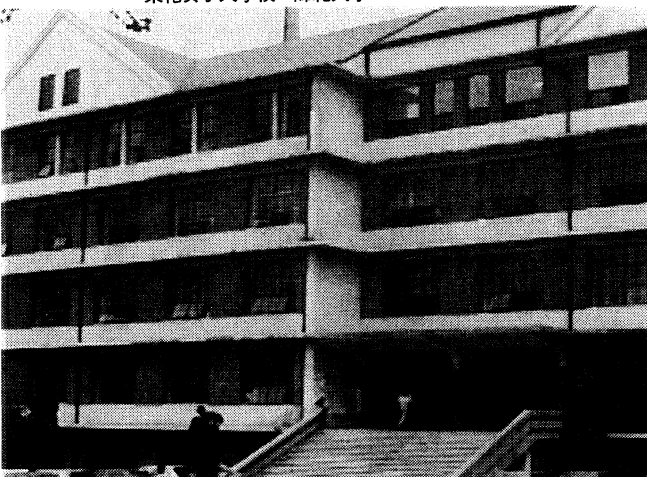
私のソウル生活のほとんどは梨花女子大の図書館であった。その便宜を図ってくださったのも李先生であった。またあわせて初めて図書館にいったとき、館長の美しい先生が「NICE TO MEET YOU」とさうってくださったのを聞いて、なんだかほっとしたことをいまでも思い出す。

この図書館を含めて、梨花女子大のキャンパスは、ほとんどが緑の林の中に立

っている石造りの趣のある建物によって構成されていて、私はその風景をとっても楽しんだ。

それに学生は夏休み中にも関わらず、図書館は常に満員であり、ほとんどが企業や教員の採用試験のための勉強、または「TOEFL」の受験勉強であった。な

梨花女子大 師範大学



んだか一九六〇年代の日本の姿が重なって見えるようであった。

いざや 公州（コンジュ）へ

ソウルの友人姜さん（韓国人形劇協会長）に紹介いただいて、国立公州専門大学（三年制）の巖先生と知り合った。とても優しい先生で、自宅に招いてご馳走してくださったり、公州（かつての新羅の首都）へお連れくださった。

奥様のキムスッキさんは放送作家で、貴重な著書をいただいた。また息子さんたちも大変人柄がよくて、わが子を省み

てうらやましかった。

この巖先生の大学は、私の勤務する保育短大と近い性格の大学で、幼児教育科での幼児教育教員養成をしている。学科長、学長にもお目にかかり、将来的に学術交流、学生交流できるように先ず教員どうし仲良くしましょうと大変好意的であった。

この公州専門大学に即していえば、現在幼稚園教員資格の四年制と二年制を区別しようとする動きがあり、この学校もそのための準備をしているということであった。国際的に通用する大学の基礎的

条件を鋭く問われた思いのする訪問であった。

（名古屋市立保育短期大学）

